

## プロジェクト 2024-1

軽度に虚弱な高齢者に有効で普及しやすいリエイブルメント・プログラムの開発及び効果検証研究 ―自立生活の再獲得に向けた高齢者本人の自律的な行動を支援するプログラムの効果検討―

## 研究体制

研究リーダー：吉田 俊之（地域連携センター 教授）

研究メンバー：関 美雪（看護学科 教授）、石崎 順子（看護学科 教授）、柴田 亜希（看護学科 准教授）、服部 真理子（看護学科 准教授）、久保田 圭祐（研究開発センター 特任助教）

学外協力者：中谷 直樹（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 予防医学・疫学部門 教授）、服部 真治（一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構 政策推進部 副部長）、中村 一郎（一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構 政策推進部 副部長）

## 1. 研究背景

軽度のケアやサポートを必要とする高齢者は、本人自身が生活を管理し自立した生活を再獲得したいと願う。この自立の再獲得に有効なセルフケア戦略を支援するアプローチのひとつにリエイブルメントプログラムがあり、軽度の介護や生活支援サービスのニーズを減少させる効果が報告され、リハビリ専門職が重要な役割を果たしている。介護を必要とやすくなる 85 歳以上高齢者の増加が想定されるなか期待の高まるアプローチだが、生活支援領域に関与するリハビリ専門職の慢性的な供給不足がある。中長期的な将来においても急激な供給増加は想定しにくい。そのため、リハビリ専門職の関与を少なくした新たな高齢者のセルフケア戦略を支援するプログラムの開発と効果検証が重要な研究課題となっている。

## 2. 研究目的

本研究は、自立生活の再獲得に向けた高齢者の自律的な行動に対する支援という観点から、公的介護予防サービスに関する政策提言を目的とする。高齢者の生活自立を高める住民主体のプログラムを開発し効果検証する。

## 3. 研究概要

本研究では、軽度に虚弱な高齢者について、リハビリ専門職の関与を緩和したリエイブルメントプログラムのケア継続の必要性を減少させる効果を、RCT と計量経済の分析手法を用い因果推定することを目的とする。具体的には研究期間内に次の4点を明らかに

にする。また、公的給付に対する対効果分析を含む10年程度の長期の前向き研究を考えており、今回はその第1期と想定する。

- 1) リハビリ専門職の関与を緩和したリエイブルメントプログラムの確立
- 2) ケア継続の必要性を減少させる効果に関連する要因の同定
- 3) リエイブルメントプログラムへの参加意思に影響する要因の同定
- 4) リハビリ専門職の関与を緩和したリエイブルメントプログラムの因果効果の推定